

ほそだ
細田古窯群

所在地 知多郡美浜町河和地内
調査理由 県道半田南知多線
調査期間 平成15年4月～7月
調査面積 900㎡
担当者 小嶋廣也・松田 訓



調査地点 (1/2.5万「河和」)

調査の経過 調査は県道半田南知多線建設工事に伴う事前調査として、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成15年4月から7月にかけて実施した。調査面積は900㎡である。

立地と環境 細田古窯は知多半島南部に位置し、東西の海岸に町域を広げる美浜町の中で、東岸の河和集落から南知多町内海に通じる道を、半島中央部に連なる丘陵地側へ登った小谷に立地する。知多半島は、細田古窯のように灰釉系陶器（山茶碗）の生産地として著名であるが、調査地点は知多半島に所在する古窯址群の中でも、ほぼ南端に位置する。調査地点の旧態は果樹園、畑地で、周辺は果樹園、雑木林、竹林が広がる。

調査の概要 調査区は、斜面に平坦地を確保するため段状に造成されており、この果樹園跡に設定された。旧地形は、調査区中央に小谷の最深部が南北方向で通っており、これをはさんで東西にそれぞれ窯体が確認できた。検出された遺構は窯跡3基で、同時に灰原も確認できた。窯跡は、小谷最深部の西側に2基が並行して築かれており、この2基は、南向き斜面を北へ上る方向で掘削されていた。小谷最深部東側では、これとやや方向を変え東側に上る方向で掘削されており、小谷最深部を中心として扇形に3基が展開する。いずれの窯体も、造成時にほとんどの部分が削平されており、床面と窯壁・分焰柱の一部を確認できるのみであった。3基とも、床面下施設は伴わないものと思われる。出土遺物は、いわゆる山茶碗と皿で、いずれも12世紀後半～13世紀前半のものと思われる。(松田 訓)



SY01



SY03